

客観的・主観的情報格差を感じている高齢者の特性

水野一成（NTTドコモ モバイル社会研究所）

【目的】

本研究は,高齢者における情報格差を主観的および客観的観点から類型化し,各類型の特性を明らかにすること

【調査概要】

調査時期	2025.1
調査方法	訪問留置法
調査対象	全国（65歳～84歳）
標本抽出方法	層二段抽出 性別・年齢・地域・都市規模で割付
回答数	1,031人 分析対象者は分析項目に欠損の無い940人

【倫理的配慮】

調査員が被験者に対して調査内容および方法について十分な説明を行い,同意が得られた者のみに回答を依頼.また,本調査の実施については当研究所所長の承諾を得ている.

【調査結果】

客観 スマホを利用したことでの肯定的生活の変化の結果を基に「変化有」「変化無」に分ける

表1 客観的情報格差の結果に基づく因子分析

	負担軽減	情報
チケットやクーポン、Webサイトなどを印刷しなくてもよい	0.86	-0.07
現金やカードを持ち歩かなくても買い物ができる	0.84	-0.11
財布やカード入れがすっきりした	0.8	-0.1
ネットで手続きができるため、店舗に行く手間が省ける	0.75	0.04
商品やサービスを簡単に見つけ、お店で購入することになった	0.75	0.1
欲しい商品やサービスを簡単に見つけ、購入することができる	0.75	0.13
買い物などでポイントを貯めたり利用したりできる	0.74	0.02
本、雑誌、新聞を持ち歩かなくてもよい	0.7	-0.03
紙の手帳やメモ帳を利用しなくてもよい	0.64	0.08
ご自身が住んでいる地域の気象情報を得ることができる	-0.11	0.87
疑問に思ったことをすぐに調べることができる	0.02	0.81
災害情報が通知され、すぐに知ることができる	-0.14	0.77
興味のある情報や災害情報が通知され、すぐに知ることができる	0.27	0.54
地図アプリや乗り換え案内を利用して目的地に迷わずにいける	0.3	0.53

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a 3 回の反復で回転が収束しました。

表2 客観的情報格差の結果に基づくクラスタ分析

		変化有		変化無	
クラスタ名		多方面	情報中心	未実感	スマホ未所有
因子	負担軽減	1.19	-0.36	-0.94	
	情報	0.83	0.1	-1.38	
回答数(n)		262	381	184	204
構成比 (%)		25	37	18	20

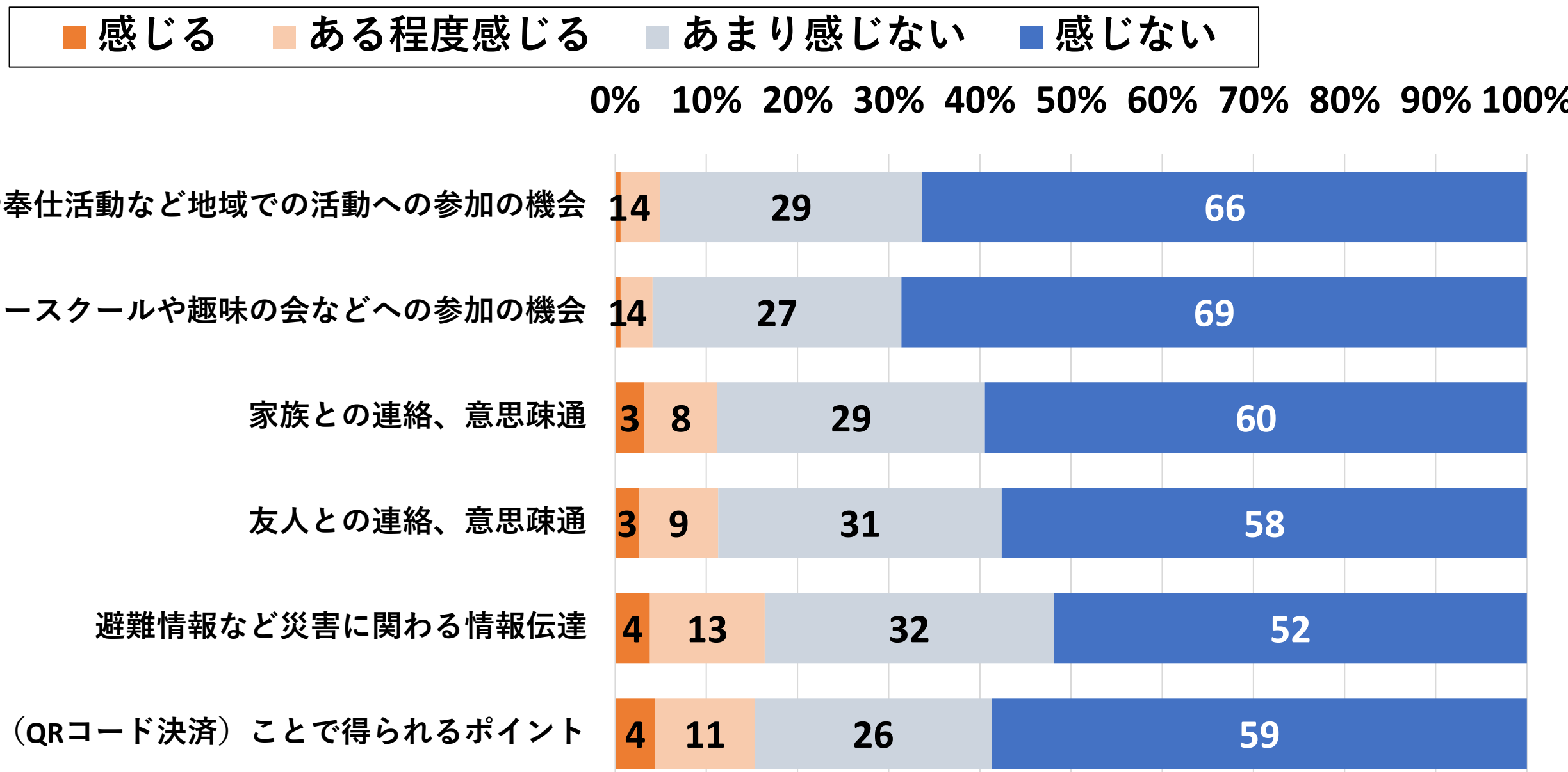


図1 主観的情報格差

【結果】

表3 カテゴリースコア（数量化理論第Ⅱ類）

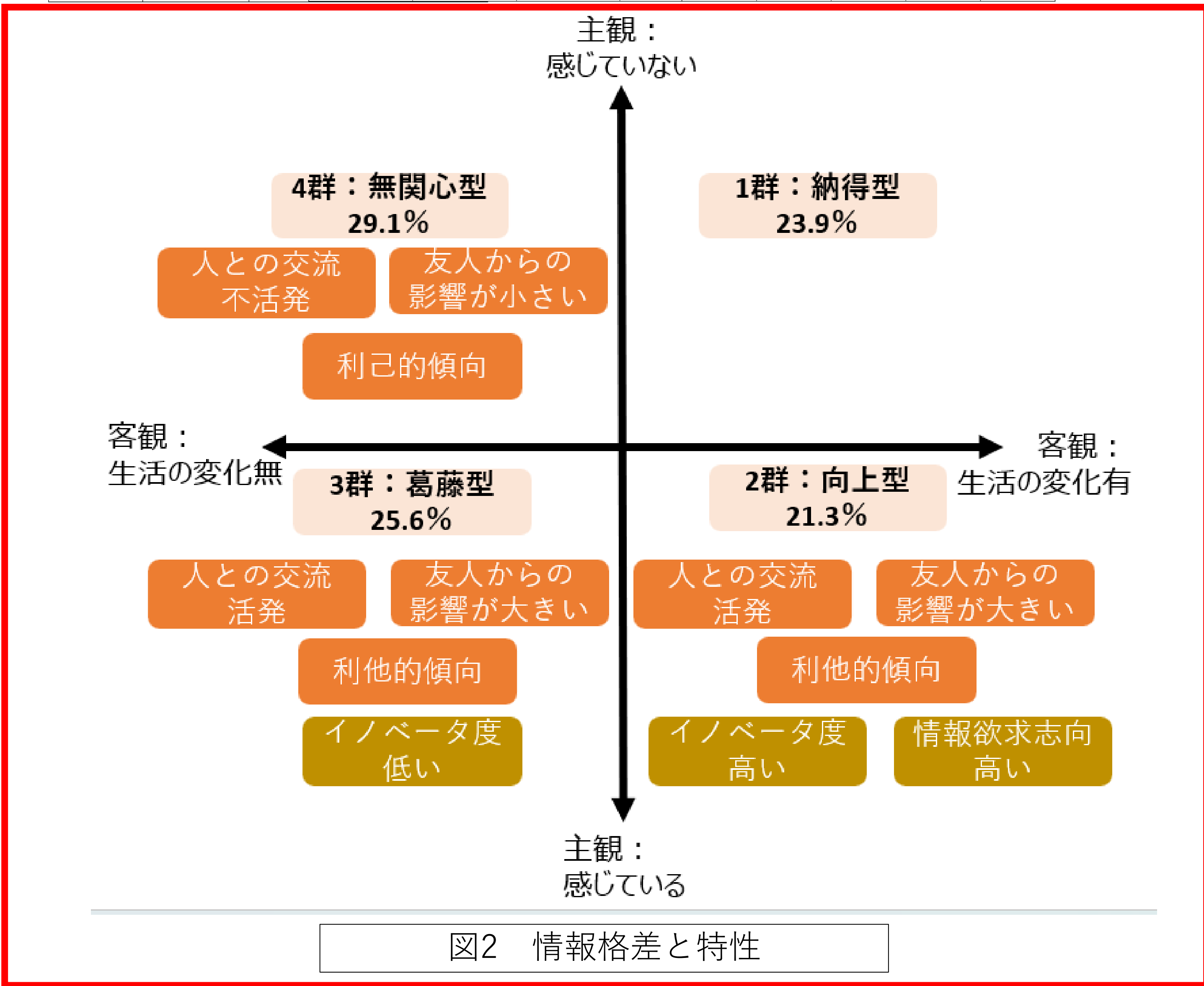
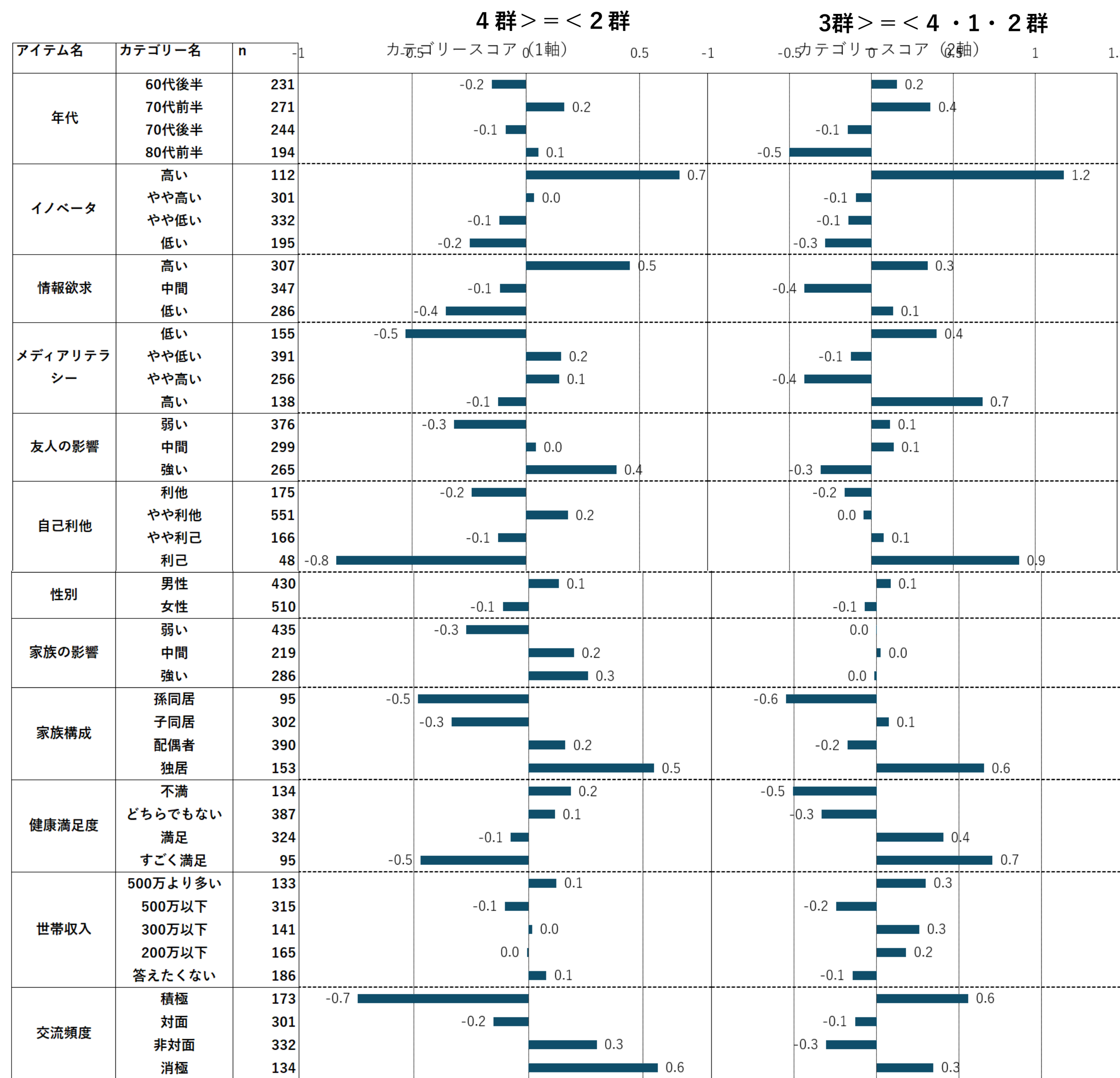


図2 情報格差と特性

【結論】

主観的情報格差は対人関係からの影響を受けており,一方で客観的情報格差はライフスタイルの影響を受けていた.

【参考文献】

Farooq Mubarak(2022) Elderly Forgotten? Digital Exclusion in the Information Age and the Rising Grey DigitalDivide, The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing,Volume 59: 1–7

◇ご案内◇

調査結果は弊所HPで公開『モバイル社会研究所』で検索

